

申請者	学科名	保健福祉	職名	准教授	氏名	佐藤 ゆかり 印
調査研究課題	地域高齢者の身体機能低下や体形変化を補完するユニバーサル水着の開発研究					
交付決定額	380,000円					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	佐藤ゆかり	保健福祉学科・助教		老年科学、高齢者ケア	企画・総合調整、データ収集、解析、報告書作成
	分担者	齋藤 圭介 香川 幸次郎 吉井 一成	吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科・教授 関西福祉大学大学院社会福祉学研究科・特任教授 倉敷スクールタイガー縫製株式会社 代表取締役		保健福祉領域の理学療法 高齢者・障がい者の地域ケア カスタマイズ衣服・水着の開発	調査企画の助言 企画と評価 調査企画、調査実施
調査研究実績の概要	<p>I. 研究目的</p> <p>明るく活力ある社会の実現に向けて、高齢者が家庭や地域においてこれまで培った豊かな経験と知識や技能を発揮し、健康で生きがいを持って社会活動を行うための基盤整備が進められている。近年、健康寿命延伸の観点から、日常生活に運動を取り入れることが推奨され、水泳や水中ウォーキングを楽しむ高齢者が増えている。高齢者の特徴として、脊椎の湾曲や全体的な委縮、関節可動域の狭小等は頻繁に観察され、時には肥満に伴う体形の変化もみられる。しかし、市販の水着は40～50歳代程度までの体形を基本として製図されたものであり、高齢者の体形に適合しないため、動きにくい、着脱に時間がかかる、サイズが合わない、着崩れしやすいなどの不都合が生じている。先行研究を概観すると、日常生活で着用する衣服には関心が向けられカスタマイズ衣料の開発成果が散見されるものの、水着については取り組まれていないのが現状である。</p> <p>以上を踏まえ本研究は、地域高齢者の身体機能低下や体形変化を補完するユニバーサル水着の開発に向けた基礎研究として、水着の困りごとや要望等を把握することを目的とした。</p> <p>II. 研究方法</p> <p>調査対象者は、A施設（健康福祉支援拠点）を利用する地域住民200名（65歳以上および50歳以上のプール利用者）とし、質問紙による無記名自記式調査を実施した。調査内容は、①基本属性、②身体や活動等の状況、③水中活動の状況、④水着の困りごと・要望とした。調査期間は、平成26年8月8日から平成26年10月30日とした。</p>					

地域貢献への
反映を踏まえて
記述のこと

<p>調査研究実績の概要</p> <p>（地域貢献への反映を踏まえて記述のこと）</p>	<p>解析方法は、①対象者の基本属性、身体や活動等の状況、水中活動の状況等を把握②現在使用している水着の型と水着に対する評価を概観、③身体や活動等の状況から、虚弱高齢者等の特性を有する集団を抽出し、現在使用している水着の評価について比較検討、④現在使用している水着の型や水中活動の様子から、特定の集団を抽出し、現在使用している水着の評価について比較検討、⑤現在使用している水着の困りごと・要望等の自由記述を、高齢者（65歳以上）と壮年期（50～59歳）に別けて把握した。なお、本研究は、岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施した。</p> <p>Ⅲ. 結果の概要</p> <p>調査に同意が得られ配布した調査票197票のうち183票が回収された（回収率92.9%）。そのうち、性別と年齢に欠損がない179票のデータを解析に用いた。</p> <p>解析対象者の基本属性として、性別は男性55名（30.7%）、女性124名（69.3%）であった。平均年齢は65.9±6.8歳、範囲は50歳から81歳であった。平均身長は、男性166.0±6.3 cm、女性153.8±5.4 cmであった。平均体重は、男性67.4±9.8 kg、女性56.6±9.6 kgであった。</p> <p>現在使用している水着に対して、全体的な評価領域を5つ設け回答を求めた。「動きやすさ」の平均得点は4.0点、「形状」は3.9点、「素材」は4.0点、「快適さ」は3.8点、「デザイン」は3.8点であった。5つの評価領域にさらに下位項目を設け、37項目に回答を求めた。全ケースの総合評価を概観すると3.8～4.0点であった。動きやすさは3.7～4.2点、形状は3.7～4.0点、素材は3.7～3.9点、快適さは3.7～4.0点、デザインは3.2～3.7点であった。デザインに関する項目が他の領域より評価が低い傾向であった。</p> <p>身体や活動等の状況から、虚弱高齢者等の特性を有する集団を抽出し、水着の困りごとについて、比較検討を行った。虚弱高齢者の評価では、余分なゆとりがあり、着脱しにくく、着崩れるといった困りごとが抽出された。また、布地の厚み、伸縮性、はっ水性、着心地、圧迫感、肌ざわり等について改善の余地があることが把握された。デザインについては、他の領域に比して評価が低く、おしゃれ感や色づかいを豊かに、感性を満足させ、さらに体形をカバーできる水着が求められていた。</p> <p>現在使用している水着に対する困りごとや要望を自由記述で求め、高齢者（65歳以上、115名）、壮年期（50歳～59歳、64名）別に整理した。動きやすさの課題として、着脱の困難さが両者に共通して抽出された。形状の課題として、高齢者では、首から肩、背中にかけての形状に検討の余地があることが抽出された。壮年期では、ふくよかさに伴う窮屈さが挙げられた。素材については、耐久性が求められていた。快適さについては、既製品では不要なゆとりのある部分と、ゆとりが不足している部分があることが推察された。デザインについては、着用している水着に満足できないが仕方なく着続けている現状や、おしゃれを楽しみながら水中活動を行いたいという強い思いが浮かび上がった。</p> <p>Ⅳ. 地域貢献への反映</p> <p>本研究から得られた結果をもとにユニバーサル水着開発し、地域高齢者にご使用いただくことで、水中活動の質の向上や着脱時間の短縮による活動量確保と心身の負担軽減につながり、健康増進の一助となることが期待される。</p> <p>Ⅴ. 謝辞</p> <p>アンケートにご協力いただきました地域住民の皆様、アンケートの配布・回収にご協力いただきましたA施設の職員の皆様にご心よりお礼申し上げます。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>1. 佐藤ゆかり他「地域高齢者の身体機能低下や体形変化を補完するユニバーサル水着の開発研究報告書」2015年3月</p>